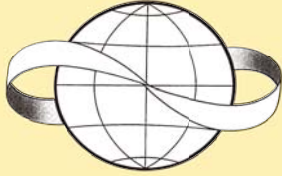


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第67号

商標登録第 4882482 号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 18
TEL : 042 - 395 - 9788
FAX : 042 - 395 - 9787

謹賀新年

新年あけましておめでとうございませう。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

代表理事 吉浦高志

古布・鉄スクラップを始め資源物価格が大暴落した一昨年を受け、二〇一六年は厳しい市況の中スタートした。古布は相変わらずだが、昨年秋より、鉄、非鉄スクラップが復調し、暴落前の水準にまで戻りつつある。古紙の輸出価格も一〇月末より強含みで推移しており、日経相場は安定している。

その一方で、市況の推移に反比例するように資源物の発生減が深刻な問題になっている。市内で発生する古紙を全量集団回収だけで回収している横須賀市の実績を伺ったところ、最も回収量の多かった二〇〇三年と比較して紙類が四割も減少しているようだ。人口はどうかという点、数%減にとどまっており、やはり一人当たりの紙の消費量が減っているという点になる。回収量が四割も減っているという点は、集団回収の団体に支払われる報奨金も、そして回収業者の収入も四割減って

しまっているということになる。単価だけを見ると市況が良くなっている。回収量が減少してしまえば収入減をカバーできないことになる。なお雑がみなど低価格の高張る古紙が増え、全体量が少なくなっても市内全域を限なく回収するわけだから、回収に係る手間が減る訳ではない。

パソコンの普及などによって、ペーパーレス化の進行が懸念されて久しいが、ここに至って毎年のように古紙の回収量が減っているのは、新聞や雑誌の購読者の減少、スマートフォンの普及はもちろん、景気の減退がかなり影響していると考えられる。実際、物流関係のお客様が、モノが売れなくなったと嘆いておられた。特に今の若者は、車や洋服などにあまりお金をかけないようだ。スマホでいくら課金しても、賃金が増えた分いくら貯金しても経済の循環にはあまり寄与しない。モノを作って、モノが売れて初めて経済が循環する。そうやって動脈産業が潤って初めて我々静脈にも景気の流れがやってくる。もちろん、無駄遣いを推奨するわけではないが、スマホやパソコンから少し目を離して、まちを歩いたり、旅行に行ったりしてみても如何だろうか？

また、これだけ資源物が減っている中、持ち去り問題は未だに解決の糸口が見えない。古紙・古布が戸別収集になった東村山市ではステーション回収の時よりは持ち去り業者は減ったが、集合住宅の多い地域では、未だに持ち去り業者が暗躍しており、集合住宅の積所だけでは足りない分を戸別の住宅から持ち去っている。道路端のステーション回収の時は所有権の不明確さが課題だったが、戸別回収の場合、各家庭の敷地内に置いてあるのだから、所有権は明確に家主にあり、これを持ち去る行為は明らかな窃盗罪になる。また、市民の方々の家の敷地内に無断で立ち入る行為は断じて許せない。引き続き、行政、警察と連携を取りながら持ち去り問題の解決に努めてまいりたい。

各市は、今後益々雑がみの回収に力を入れており、我々も積極的に対応している。各種イベントでの回収袋の配布だけでなく、ご依頼があれば、雑がみの分別に関する講演も開催し、啓発に努めたい。西年は、収穫の年と言われている。景気が良くなり、持ち去り業者も撲滅し、資源物の収穫が増え、皆様と笑顔の一年になりますこと心より祈念申し上げます。

リサイクル適性(A)

直言放言

資源循環事業の今昔

東多摩再資源化事業協同組合

常任顧問 紺野 武郎

新年おめでとーいびらいます。

組合設立から二〇年間、理事長を務めて参りましたが、平成二五年九月、吉浦現理事長に交代しました。今は、常任顧問として主に組合の事務局や渉外関係をお手伝いしています。

毎号この欄は、外部有識者のご投稿で「直言拝聴」を掲載しています。が、今回は、業界に入つて五〇年の節目になるとして、「積もり積もつた小言でもどうぞ」と促され、引き受けた次第です。

私が資源回収業界に入ったのは昭和四二年、東京で「ごみ戦争」が始まった頃でした。気楽に脱サラして飛び込んだこの業界は、永い歴史があり奥が深く幅の広さに驚愕することばかりでした。

少資源国である我が国の資源循環事業は、江戸の昔から栄えてきた歴史があり、大戦後の昭和二〇年代までは、リユース(再使用)・リペア(修理)の事業が栄えていました。

古道具屋・古物商・古着屋・仕立て直し屋・染め直し屋・鍛冶屋・鋳掛屋・傘や履物の修理店等など。リヤカーで町内を隈なくまわる屑屋さんも活躍していました。

やがて日本は高度経済成長長期に入り、『消費は美德』の世相が、大量のゴミを排出させることになり、「ちり紙交換車」が走るようになったのもこの頃です。

同時に、石油から作られるプラスチックなどの高分子物質が、あらゆる物品器材の原材料に使用され、リユース・リサイクルの構造が根底から激変し、再利用困難物は廃棄物として管理されました。

それでも古紙・金属屑・古布・びんガラス類等は、リサイクル可能品(専ら物)として、廃棄物処理業の許可無く、資源回収業者が取り

扱える物として残りしました。昭和四八年のオイルショックで、突如物資不足が囁かれ、トイレットペーパー騒動が起こり、その時は資源物も暴騰しましたが、それも一瞬の出来事で、その後古紙価格などは低迷したままです。

段ボール古紙で段ボール原紙を再生し、新聞古紙の脱墨技術向上による再生新聞用紙の生産を可能にするなど、国内での再利用技術も向上しましたが、バブル時代の発生増は止まりません。

リユースの優等生だったびん類もペットボトル・アルミ缶などに変わり、びんの生産量や使用量は、今も激減したままです。

平成の時代に入ってバブルが崩壊し、一転大不況となつて全ての資源物がゼロ価値になりました。

都内の資源業者が百台のトラックに雑誌古紙を積んで、夢の島に投棄する車両デモを決行したのははじめ、デモや決起大会を繰り返して行いました。

しかしその甲斐もなく、資源回収業は商売として成り立たなくなり、「逆有償回収」と言う、お客さんにお金をもらつて古紙などを集める非常事態となりました。

事業系の資源物は、何とか逆有償回収のお願いが出来ても、家庭か

ら出る古紙などお金を貰つて回収することは不可能でした。「余りものに価値なし」と見放され、転廃業が相次ぎました。

貴重な資源循環型機構を、ここで没してはと国や自治体の支援を求めて、さらに奔走する毎日が始まったのです。

国に対しては、安定した資源循環社会の構築、生産者には回収資源の再利用率向上やリサイクルコスト負担、消費者には、廃棄物の発生抑制・リユース・リサイクルの徹底や再生品の積極的な利用をお願いし、各自自治体には資源回収コストの助成を訴え続けました。

特に業界は、集団回収の維持拡充策として市民団体を支援している助成金の一部を、回収業者に支援して頂くよう、各市にお願いして回りました。

市民や・マスコミにも最大限の応援をして頂きました。

当時の新聞には、環境問題やごみ減量リサイクル促進策、再生紙の利用促進などの見出しが連日紙面をにぎわしていました。

しかし、このままではごみ化する資源を止められないとして、一部自治体が直接資源物回収をする「行政回収」が、始まりました。

最初は、びん缶など、民間事業で

は全く回収できなくなっていた資源物の回収から始まり、やがて我々の主食である古紙・古布類にまでおよびました。

自治体の職員が一台の車に三人も乗って直接回収し、問屋に持ち込むと言うシステムで、回収コストは、人件費も車両も燃費も駐車場もその他経費全て自治体の一般会計で賄う、固定資産税も払わないで済むのだから喧嘩になりません。まさに公営リサイクル業の誕生で、民間の資源業界に巨大なブルドーザーが踏み込んで来たような恐怖と危機感を、今も悪夢のように思い出します。

当時のこのシステムは、多大な行政コストが掛かるばかりでなく、ごみ感覚で集めるためか品質も悪く、余剰資源はさらに増加して、最悪の事態になりました。

集団回収も、毎週回収してくれる行政回収に負けてしまいます。

度重なる危機の末、いよいよ正念場の戦いが始まりました。我々には、最低コストで最高品質の再生資源を流通するために、積み重ねてきたノウハウがあります。静脈産業の毛細管の部分として全国に張り巡らした組織も残っています。何よりも再生資源事業に対する誇りと情熱があります。

行政が直接資源回収を実施したという事実は、今後資源リサイクル事業が、公共事業として国や自治体に認められ、永続することになったのだと受止めました。

また古紙類は、びんや缶の二十倍近い発生量があり、その殆どは現に民間事業者が処理しています。

これからは、地元の資源循環事業に、積極的に行政回収を加えて頂き、その事業委託を請けて、市民に最高の貢献をするのみです。

東多摩再資源化事業協同組合は地域の回収事業者が団結し、その営業権の維持拡充と、徹底した地元市民への奉仕を実行するために平成五年に設立しました。国や都が認める『官公需適格事業組合』の資格も取得できました。

お蔭をもちまして、関係各市からも市民からも、ご理解とご支援を頂いて、全国でも模範的な資源組合として自負できるまでになりました。

行政回収が定着したことで、古紙価格は安価に低迷してしまいました。安価な余剰古紙が国内の古紙利用率を大幅に向上させ、中国などへの輸出事業も安定して実施できるようになり、地球規模のリサイクル事業の幕開けにも繋がった訳です。

輸出事業は、国際価格相場(ドル建て)で取引をするため、国内相場とは常に乖離し、解り難い二重相場となりました。しかし、余りものに価値が出来て、余剰化が解消したことには、感謝・感謝です。今、行政回収最大の悩みは、資源物の持ち去り問題です。早朝に遠方から来て、「良いものだけ」を持ち去る。手間のかかる物や場所には手を出さない。残された物・散らかされた場所を片付け、回収し直すのは地元業者の仕事となります。荷物が減って手間は倍増し、経済的にも環境にも教育的にも悪影響を及ぼしています。

「誰が集めてもリサイクルされるなら問題ない」と言う識者もありますが、持ち去り業者は身分を明かさず、何の責任も持たず、持ち去った物の流通経路も不明で、市民が間違っって出した物や個人情報も盗まれたままです。盗品売買の罪をかさね、市民や自治体に多大な迷惑をかけ、相場が下がれば簡単に回収放棄する、このような行為を問題ないと見逃しているのでしょうか？

最近では、スーパーや量販店などでも、リサイクルに貢献する企業などのうたい文句で、新聞古紙や雑誌類に、法外な景品などを付けて、

集客手段に利用している所があります。これも身勝手な「良いとこ取り」になって集団回収など既存の回収に悪影響が出ます。

沢山の車両が個々に古紙を持ち込むため周辺を環境汚染することにもなり、循環社会に貢献しているとはとても言えません。別目的で資源回収を悪用すれば、市民に対し誤った情報発信にもなり、厳に慎むべきです。

当組合は、小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市で営業している十四業者が、各市の資源回収事業と地域の事業所工場などの資源回収をしています。

現在、組合および組合員所属の、総従業員回収員数二三五名・各種車両重機合計一八七台・各種設備等備えたヤード四二九〇坪を維持管理しています。土・日・祭日も、殆ど年中無休で早朝から営業しています。

これらの民間施設を、公共施設に置き換えて考えてみれば、稼働時間日数は大幅に制限され、土地建物・車両設備・人員・コストなど、どれだけ必要になるのか計り知れず、迷惑施設として城内建設も極めて困難になるでしょう。資源循環社会を守るためには、社会全体のご理解が必要です。

回収員安全講習会を実施

去る一〇月七日(金)、毎年恒例の回収員安全講習会を開催した。来賓として東村山市資源循環部ごみ減量推進課内野課長様、東久留米市環境安全部ごみ対策課中谷課長様にご臨席頂き、回収における安全作業についてお話を頂いた。

参加者は、組合委託業務に携わるドライバーおよそ八〇名。講習会の進行は紺野専務理事と水野青年部長が務めた。今年七月から始まる東久留米市の戸別収集を控え、改めてトラックの安全運転から、回収作業時の注意事項、特に戸別収集時における注意点などについてパワーポイントを用いた説明を行った。参加したドライバーには、説明を聞きながらセルフチェックシートに基づき作業中の安全に関する自己チェックを行っていた。反省を踏まえて今後の安全作業に活かして頂くよう促した。組合では、今後も大きな事故が起らないよう、安全第一で作業を行っていく。



南富良野・倉吉の復興支援活動に行つてまいりました

●南富良野

まずもって、台風一〇号被害並びに鳥取地震において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、いち早い復旧・復興を祈願致します。

まず今回、台風一〇号の被害に遭つた南富良野町に行くことになったのは、別件で札幌に出張する予定があつたためでした。台風被害のニュースを見て、二日目の予定を急遽変更し駆けつけた次第です。札幌市資源リサイクル事業協同組合青年部と連携を取つたところ、急な話にもかかわらず南副部長が車を出して頂けると言うことで行つて参りました。

南富良野町は北海道の真ん中から少し南に位置していますが、中心を通る国道三八号線が富良野側、帯広側の両方とも不通になっており、占冠村を経由するルートしかない状況でした。道中、そこら中で白樺の木が倒れていたり、川が濁つていて流木が打ち上げられてる様子から台風の被害の様子がだんだん見えてきました。南富良

野町に着いたときは、道路が広く、いわゆる過疎地域ですので、常総市の時ほどの被害状況は見えなかつたのですが、国道を一本入った住宅街では、洪水のすさまじさが伝わってきました。道路にはまだ水が残っていて、道路脇には濡れてしまつた家財道具が山になっていました。土がえぐり取られて家の基礎がむき出しになっていたり、どこからか車庫が流されて来ているような状況です。



近所のガレージが流されてきている

私たちは町役場に設けられた災害支援センターに行き、ボランティア登録をしました。そこでマッティングをし、帯広方面に一〇kmほど走つたところにある狩勝峠の手前の落合集落へ向かいました。そこから依頼主のお宅へお邪魔し、まずは挨拶。依頼主のおじいさん(仮にYさん)、開口一番、「日曜

日は仕事をする日じゃないから今日の作業は特にねえな・・・」なんておっしゃるものですが、いきなりずっこけてしまいました。そこから一時間ほど台風のことから手作りの小屋のこと、裏の山林のことや熊の話、家族の話など、道産子の南君も聞き取れない北海道弁でお話を聞かせて頂きました。センターの方の見回りも来たのでようやく作業開始。被災ごみを国道のところまでリヤカーで運び出す作業でした。一時間ほどでほぼほぼ作業を終えたところで休憩。休憩中の雑談の中で新たなミッション発令、ミッション開始。基礎部分の土砂が流されて沈下してしまい、さらに流れ込んだ泥がたまつた小屋からの薪の運び出しが始まります。小屋の中から新たなごみが発生。ついでに材木を運び出して干しておこう、いやまず床の泥を・・・そんな感じで作業とトラックを重ねながら一五時まで・・・当初の依頼事項より、後から追加された作業の方が多かつたですが、大変な出来事を乗り越えて前向きに進んでいるYさんに逆に励まされるような形であつたという間に時間が過ぎていきました。きれいな小屋の中を見て、Yさん夫婦からは心からの感謝の言葉を頂



流木で線路や鉄橋がふさがれ、不通になっている根室本線。廃線もささやかれているだけに心配です。

きました。床が乾いたら、沈んだ小屋を自分一人でジャッキ上げするつもりはYさんの今後が心配で、ボランティアはもう大丈夫だと言われたものの、継続でお願いし、すつとセンターに依頼し、後ろ髪を引かれる思いで落合集落を後にしました。落合には鉄道の駅もあるのですが、やはり水害で不通となっています。山から流れてきた流木が橋をふさいでしまっていたり、線路に土砂が流れ込んでしまっているからです。

日でしたので、徐々に物流も戻ってくるでしょうが、まだまだ危険な橋なども多く復旧には時間がかかりそうです。今はボランティアもたくさん入っていますが、普段は人口も若い労働力も少ない過疎地域ですので、息長く支援をしていかなくてはならないと感じました。少しでも力になればと訪れた今回の南富良野町訪問でしたが、被災地の方々やボランティアの方々の心の交流は本当に心の栄養を頂きました。



札幌の青年部の南副部長と

●鳥取地震

●鳥取地震
続いて鳥取地震の被災地、鳥取県倉吉市。来年の全国大会が松江で開催されることもあり、山陰地方の若手の方々や連携を深めておきたいと思っていた矢先の地震でした。鳥取県や島根県の組合に連絡を取ったところ、被害がでるところもあるが、なんとか大丈夫



ブルーシートをかけた屋根が目立つ倉吉市内

実際屋根のシート掛けや補修に関する依頼が一番多かったようです。風の強い日でしたので、屋根作業はあまりなく、震災で倒れた家具や壊れた家財道具の運び出し、処分場への運搬をお手伝いさせて頂きました。常総市や熊本の被害状

夫だというお返事が返ってきて少し安心しました。ただ、来年につながるいい機会でもあるので、松江への訪問と倉吉でのボランティアを企画して訪問してまいりました。ボランティアに伺ったのは一月六日(日)。倉吉市の災害ボランティアセンターで登録をし、現地知り合った人たち五人でグループになり、依頼者宅を回らせて頂きました。確かに町中に被害の爪痕はそれほど見られませんが、道路の陥没の補修後があららこちらに見られたり、屋根をやられてブルーシートをかけている家が多数みられました。

況、街の規模からすると、がれきの発生量もそれほど多くなく、その分、分別は細かくされています。気になったのは、高齢者のみの世帯が多く、お片付けには苦労されているだろうということでした。地震とは一見関係なさそうな作業もありましたが、被災地の方々の心に寄り添って、コミュニケーションをとることもボランティアの大事な仕事ですよと一緒に回った方がおっしゃってました。まさにその通りだと思いました。皆さん、倉吉に何日間か滞在して作業されており、また熊本にも行かれていたそうです。

日本全国各地で大規模災害が多発しています。全国どこでもこのような災害に遭う可能性があり、日頃の我々市民の防災意識の向上と災害に強いまちづくりが大切です。そして、リサイクルや片付け作業のプロとしてこういう状況でどのような役割を果たすことが出来るか真剣に考えてはなりません。各地で、地元自治体との災害協定を締結している組合も多くなってきました。車両は勿論、分別の作業など、広範な災害協力体制を構築できるように、組合で取り組んでいきたいと思っています。

(TKO)

集団回収の団体を表彰

当組合並びに組合員が加盟する公益財団法人古紙再生促進センター（以下古紙センター）並びにアルミ缶リサイクル協会（以下アルミ缶協会）では、事業者からの推薦により集団資源回収に顕著な実績のある団体への表彰を行っています。本年も㈱久米川紙業の推薦で古紙センターより東村山市の集団資源回収団体であるベルの会に感謝状が、㈱三栄サービスの推薦でアルミ缶協会より東久留米市立第十小学校、清瀬市立清瀬小学校がアルミ缶リサイクル優秀校の表彰が贈られました。

アルミ缶リサイクル優秀校の表彰では、アルミ缶協会の森口専務



上：十小
右：清瀬小
の集合写真



理事が両校の朝礼の場でPTAの代表者に表彰状と副賞を手渡ししました。その際に、森口専務の方から、ボーキサイトから作るより、アルミ缶をリサイクルした方が一〇〇分の三の電気で作るアルミ缶を作ることができるといふ話や、プラタ

ブだけ取って集めるとリサイクルしづらいので、アルミ缶ごとリサイクルをしてくださいとお願いがありました。話を聞いていた子供たちにもリサイクルの重要性が伝わったようでした。

なお、表彰を受けるには、集団回収を実施している年数や回収実績があること、それに基づいて、協会に加盟している回収業者が推薦することが必要です。また一度表彰を受けたことがある団体は何年か経過期間が必要です。詳しくは回収業者にお問い合わせ下さい。

**集団回収団体の依頼を受け
分別リサイクルに関する
講演を行っています。**

当組合では、集団回収団体等からご依頼を頂き、古紙のリサイクルや分別などの講演を行っています。十一月一日（木）には、福祉団体の研修会にてご依頼を頂き、

当組合二階会議室にて古紙のリサイクルについて講演させて頂きました。

古紙のリサイクルの歴史から、現状について、リサイクルの流れから禁忌品の見本を実際に見て頂きながら分別に関するお話をさせて頂きました。今回はできませんでしたが、時間があれば紙漉き体験も出来ます。製紙会社の工程も実は紙漉きの原理と同じですので、知識を深めて頂くことができます。

なお、参加された皆様には、雑がみ回収袋とトイレットペーパーをお土産にお渡ししました。

また、一月二三日（日）には、集団回収の団体様からご依頼を頂き、『防災のためのリサイクルのすすめ』と題して講演をしてまいりました。これは、東村山市の美住リサイクルショップで発行している『夢ハウスだより』の取材記事をご覧頂き、それをきっかけにお



話を頂きました。



秋水園ふれあいセンターでの様子

東日本大震災や関東東北豪雨など、青年部で復興支援ボランティア活動を行ってきた中から見えた被災時のごみ片付け、ごみ処理の問題点、そこから、平時のお片付けや地域の共助の輪づくりが大切というお話をしました。集団資源回収はまさに片付けにも共助の輪づくりにも最適ですので、自治会と我々業者も協力して頑張ってくださいませと呼びかけました。合わせて分別や出し方の注意点についてもお話ししました。支援活動が地域のリサイクルの推進の一助となれば幸いです。

ご興味のある方は、組合までお問い合わせ下さい。（TKO）

リサイクル掲示板

資源回収の疑問に答えます！

?



今回は、市民の皆様からお寄せ頂いた資源回収に関する素朴な疑問にお答え致します。なお、その他、聞いてみたいことがある方は、お気軽に組合までご連絡ください。今後も皆様の疑問・質問にお答えし、円滑な資源リサイクルの推進に努めてまいりたいと考えています。



Q1. 行政回収に出す場合、回収車が来る時間までに出せばいいですか？

A1. 皆様のところに回収に向う時間は、いつも同じではありません。天候や回収量によっても変わりますし、古紙・古着は、新聞・雑誌・段ボール・古着と4品目に分かれているため、回収車輛がそれぞれ違う場合もあり、回収には時間差が生じます。このため、市民の皆様には各市で決められた時間までに必ず出して頂くようお願いしています。



Q2. 雑がみ類は、段ボール箱に詰めて出してもいいですか？

A2. 段ボールと雑がみは再生後の用途が若干違うため、分別して回収しています。段ボールは段ボールで潰して束ねて出して下さい。雑がみ類は、紙袋に入れたり、雑誌に挟んで出して頂くのがベストです。当組合では、イベント等で雑がみ回収袋を配布しています。



段ボールと雑紙が混ざっている悪い例です



イベントで配布しているセットです

Q3. 古紙を縛るときは紙ひもで縛らなくてはいけませんか？

A3. 紙ひもは、そのまま古紙としてリサイクルできるとして環境にやさしい製品として推奨されてきました。ですが、今はビニールのひももリサイクルをしておりますので、それほど差はありません。また、紙ひもがそのままリサイクルできると言っても、選別・プレス工程においてはひもを切らなくてはなりません。また、紙ひもとビニールひもを分別する手間がかかってしまうので、業者サイドとしては、ビニールひもに統一して頂くのがベストです。現状、99%近くがビニールひもを使用しています。



Q4. 雨の日はビニールに入れれば古着を出してもいいですか？

A4. 資源回収のトラックには屋根がありません。ビニールに入っても回収中にどうしても濡れてしまいます。ビニール袋についた水分は、ほかの古布に移ってしまう可能性もあります。また、湿気が多い日は袋の中が結露しやすく、結果的に中身の衣類にカビが生えてしまう可能性もあります。このため、雨の日に回収した古布類は、全て市のごみ処理施設で焼却処分しています。資源を有効に生かしていくために、雨の日には古布を出さないようご協力をお願いします。



ミャンマー視察研修

昨年、一月二三日、二六日、東資協青年部岩窪宏明氏が副理事長を務めるミャンマージャパン協同組合主催のミャンマー視察に参加した。目的は組合が直面している人手不足解決の糸口になればとの思いである。

成田からヤンゴンまで七時間三〇分のフライト、バンコクより一時間遠い、気温三二度のヤンゴン空港に到着。バスでホテル迄移動中にガイドから説明を受け、交通状況は経済発展と共に渋滞も増えているとの事だがバンコクから比べれば問題にならないと感じた。車は右側通行だが走行車両は九〇%以上日本の中古車だから右ハンドルである、最初から右側通行だと平気の様だ。新車は左ハンドルしか販売出来ないが、中古車にも規制が掛かって来るらしい。タクシーも日本車で殆んどが商用バンタイプである。バスもポロポロの日本の中古車、電車もガタボロの日本製、新しいのは韓国現代のバスぐらい。ISUZUのボンネットトラックが現役で走行しているのを見て、小学生の頃を思い出し懐かしくなった。

先乗り視察した藤沢資源組合

の金子さんよりヤンゴン市廃棄物処理の現状をレクチャーしてもらった。ヤンゴン市内には廃棄物処理業者は存在せず、市内発生廃棄物処理は全て市(YCDC)が行っている。しかし、経験や知識が無いため、収集から最終処分場まで衛生面を含めた管理体系が出来ていない。東京都はJICAと共同でヤンゴン市職員への3R教育や研修を実施し、廃棄物処理改善の支援をしている。まだまだ経済発展して行くと同時に廃棄物も増大するため、適切な廃棄物の処理は喫緊の課題である。

二四日、YCDC視察。ヤンゴン市内での廃棄物は街の道路や歩道に置かれたコンテナに選別されずに可燃ゴミとして投入され又、コンテナは街中に置いてあり、誰でも投入できる。企業やホテル、商店などはYCDCに連絡すれば取りに来てくれるが担当者同士の料金が発生する。多い所はトラックやパッカーで行き、少ない所はリヤカーで回収作業する。作業中に有価物は取り除き担当者が建場に持ち込み所得にしている。段ボール、アルミ缶、ペットボトル、リターナブルビン、軟質系プラなどが売れる。

二五日、アイドラ社視察。石神



Thilawaの経済特区

社長は、ヤンゴン市内で建設業、アパート経営、日本企業の進出と撤退のコンサルタントやマネジメント、コンビニの経営をしている。話しによると、日本企業は進出数より撤退数の方が多くなっている。利益が出にくいらしい。しかしまだまだ夢を見る事ができる国ではあるので、諦めずに進出してほしいが、賃金が安いと言う理由では進出は難しい。日本に人材派遣している会社はいくつかあり、出国前に一〇〇万円預ける様になっている。日本でいなくなると就労先に被害が出た場合はそこから支払われ、何もなければ返金される。しかし、このシステムだと日本に来て働きだしてから転職が出来ず、辛くても我慢するしかなく、可哀想な気がした。日本政府も外国人労働者に対してビザ取得緩和にもっと努力してもらいたい。

まとめとして、現在、資源業界は外国人研修制度の受け入れ業種になっていない。昨年、東資協としても東京都労働局に相談して調べて貰ったが駄目であった。帰国して役にたつ技術の取得ができる職種しか認めないとの事だが、果たして我われの資源回収作業に発展途上国に貢献する技術的価値は無いのだろうか。そんな事はない、長年にわたり積み上げてきた努力の結果として今の回収システムがあり、これからも、市民に対して安心安全の向上、高齢化社会に対する回収システムの構築などまだまだ考えて努力して行かなければならない、今回の視察会に参加して、市民に対する考え方や回収システムが、廃棄物処理で苦しむ発展途上国の人々に貢献出来ないはずがないと強く感じた。早く研修制度を認めて貰える様にこれから努力していきたい。(吉浦)



第5回
日中古紙
セミナー



去る十一月十七日憲政記念館にて開催。

講師は、中国再生資源回收利用協会の潘永剛氏、浙江景興紙業有限公司の徐海偉氏、中国検査認証集団検査有限公司（C C I C）の馮志新氏、日本製紙株式会社の本田義継氏、全国製紙原料商工組合連合会の栗原正雄氏の五氏で、夫々講演があり質疑応答があった。はじめに、古紙センター渡理事長が、両国関係者の尽力に感謝し、古紙製紙両業界の安定と発展に寄与するものと確信していると挨拶した。続いて、経産省の茂木課長が、我が国の古紙輸出量の六五％にあたる三百万トンを中心中国に搬送し、最大の輸出国となっている。このセミナーが、両国の諸課題についての交流と相互発展に寄与するものと信じていると述べた。

講演内容を要約すると、中国の三氏からは、国内の回収体制の整備や経営統合に伴い古紙回収率が年々増加している。この十年間で紙類の国内消費量は五六％増、古

紙の回収量も二倍以上に増え四八二〇万トンとなった。そのため輸入古紙への依存度が低下傾向にある。また古紙回収電子取引、オンライン取引なども拡大していて新たな発展を迎えている。中国国内の古紙品質も向上しているのに対して、日本の古紙品質は低下傾向にある。水分含有が多くビニール・木くずなどの不純物混入も目立つ。C C I Cは、輸入古紙の搬送前での検査を実施している。日本の古紙は比較的良好だが、近年異物混入などによる不合格品が増えているので、サプライヤーは中国の法律や法規をさらに認識してほしいと語った。

それに対して日本側は、産業廃棄物業者など一部アウトサイダーによる古紙輸出の増加が低品質古紙の輸出に繋がっているものと考えられる。全原連は、ジャパンブランドの認定制度を実施し、古紙品質向上とその普及に努めている。（公財）古紙再生促進センターが定める古紙の品質基準を遵守するために、リサイクルアドバイザー・品質管理責任者・古紙商品化適格事業所などの育成とその運用を拡充していると説明した。

日中両国の古紙製紙関連業界が、五年連続でこのようなセミナーを

開催していることは、古紙流通の国際化と相互理解発展に今後益々寄与するものと期待したい。

(TKR)

東京都リサイクル事業協会
茨城、福島リサイクル視察会

十一月一四〜一五日、国内リサイクル事情調査研究の一貫として、同協会の視察会に参加した。

最初の訪問先である、(株)リーテム総合廃棄物処理施設水戸工場は、一九七〇年に稼働した総合廃棄物処理工場で、高性能特殊破砕機、切断機等が有り、大型産業機械から小型電子機器、小型家電など多様な廃棄物を再資源化している。金属プラスチック複合物も特殊な金属破砕機と選別機で、高純度の鉄や非鉄金属に分離して再資源化



(株)リーテムにて

している。大きな金属廃棄物が最後に品質別に粉々になり分類される工程は圧巻であった。次に同協会栗原理事長の、ひたちなか市ストック及び輸出ヤードを訪問した。敷地三〇〇坪、建屋一〇〇〇坪の大型ヤードである。機密書類の

の破砕機も有り、関東地区でも在庫能力が非常に高い、立派なヤードである。最後に最新鋭の国際海上コンテナターミナルを有する常陸那珂港を見学した。

二日目は福島県いわき市の南部清掃センターを訪問した。高台にあるホテルの様な立派な建物だ。説明では、人口減少と共に廃棄物は減ってきていたが東日本大震災後人口増加も含めて、ゴミ処理行政を取り巻く環境が大きく変化した。だが、これからは焼却ゴミを中心としたゴミの減量に向けた施策を展開していくとのこと。

紙類分別回収事業、我われの行政回収事業のことで、いわき市古紙回収事業協同組合が月に一回新聞ダンボール、雑誌類、紙パック、その他の紙(雑紙)を回収する。当日雨が降ると中止になり翌月まで出せない、集団回収も行っていないとの事、もう少し回収日を増やした方がゴミ減量化に繋がるのではと感じた。

まとめとして、当組合の地域取り組みとして雑紙の回収方法と処理方法、そして市民の方々がどのようなシステムなら今まで以上に古紙、古布をリサイクルに出して頂けるか、考えて行きたい。(吉浦)

自治会の防災訓練に参加協力

去る十二月四日、集団回収実施団体より依頼を受け、東村山市立第四中学校で開催された防災訓練に参加した。今回は、各地の避難所でも活躍している段ボールベッドを実際に製作するということで、日興紙業商事より段ボールを提供させて頂いた。



上：訓練会場
左：段ボールで作ったベッド



工学院大学鈴木教授が開発し、実際に熊本地震の際に被災地に贈られたという段ボールの家の新聞記事を参考に、消防署の指導を受けながら製作した。段ボールベッドはクッション性もさることながら、床の冷気を防ぐことも出来る、なかなか快適だった。周りに仕切



防災訓練の様相

りを作ることににより、目隠しをすることも可能だ。また、小型の段ボールハウスも製作した。こちらは、なかなかプライバシーの確保できない避難所において貴重な個室空間を作り出すことができる。会場が中学校の体育館ということもあり、実際の災害時の避難所の感覚に近い形での訓練が出来たと思う。訓練終了後、使用した段ボールは弊社にてしっかりとリサイクルさせて頂いたのは言うまでもない。
(若林)

各市リサイクルイベントに出展協力をしました

秋の各市リサイクルイベントに参加しました。九月には小平市環境フェスティバル、十月には東村

山市リサイクルフェア、清瀬市市民まつり、十一月には小平市リサイクル「きゃらばん」です。
小平市と東村山市のイベントでは、まだまだ使えるおもちゃ、育児用品、ぬいぐるみなどの小物雑貨類の回収、使用済牛乳パックの回収(小平市のみ)、古紙分別の相談、リサイクル分別ゲームを行いました。それぞれ、駄菓子やポケットティッシュ、トイレトペーパー「ブーメラン」等の景品との交換、及び当組合の機関紙「ヴィーナス通信」他各種リサイクル関係資料の配布を行いました。
今回は、ポケットティッシュや資料を入れる袋に、当組合で試作した雑がみ回収袋を初めて活用し、市民の皆様に対して、普段の資源回収時に雑がみを出す際に利用してもらおうようPRしました。



東村山市リサイクルフェアにて
東村山市公式キャラクターの
ひがっしーと

●イベント案内 小平市リサイクルきゃらばん●

- 1月24日(火) 13:30~15:30 @小平市リサイクルセンター
- 3月23日(木) 13:30~15:30 @サミットストア小平上水本町店

※ご家庭で不要になった育児用品、おもちゃ、ぬいぐるみ、かばん、靴などの小物雑貨類を無料回収します
(雑がみ回収袋、お菓子などを差し上げます。)

清瀬の市民まつりでは、雑紙回収袋に入れてトイレトペーパー「ブーメラン」を販売しました。今後も各種イベントで袋の配布とPRを行ってまいります。(柿崎)

中学生の職場体験学習

東多摩再資協では、毎年地域貢献活動として、中学生職場体験学習の受け入れを行っています。

九月十五日・十六日の二日間、東村山市立東村山第二中学校の生徒を(株)三栄サービス、日興紙業商事(株)、(株)ケイシン、J P 資源(株)が十一名を受け入れました。

一日目、各社に集合し朝礼から参加してもらい、作業内容の確認、安全作業をする為の注意点を聞き、作業に入ってもらいました。行政回収・集団資源回収の積み作業や、古紙ヤード内での選別作業を体験してもらいました。



部活などで体を鍛えており、体力に自信のあると言っていた生徒も慣れない作業に苦戦していました。

今回、公益社団法人東京都リ

サイクル事業協会と、(株)資源新報社から中学生職場体験学習の取材を受けました。私についていた生徒さんが質問攻めにあつて大変苦労していました。

二日目は、午前中一日目同様に回収作業等をし、午後から組合事務局の二階で、リサイクルの勉強会を開催しました。はじめに、社会人が顔合わせ時におこなう「名刺交換」を体験してもらいました。受入れ先の会社名の入った自分の名刺を使い、組合理事や青年部と名刺交換をしました。



勉強会では、回収した古紙の種類や、リサイクルの流れなどを学び、テストをして全員満点を取り勉強会は終わりました。

その後、紙漉き体験をしました。牛乳パックを水に浸し、ラ

ミネートを剥がし再生パルプにして、はがきサイズの再生紙を作りました。



中学生という多感な時期にする、職場体験は、進路を考えるとき非常に有意義だと思います。未来のかすかな道標になればたらと思ひ一生懸命彼らと向き合いました。

欲を言わせてもらえらるなら、彼らが大人になった時、我々の業界に目を向け、仕事を選んでもらえたら嬉しく思います。職場体験学習に参加した中学生の皆さん、本当にお疲れ様でした。(水野 K)



● 参加した中学生の感想 ●

私はこの体験を通して、多くのことを学びました。中でも、自分が想像している以上の方々が社会を支えていることを実感しました。古紙を回収する人、紙を分ける人、紙をリサイクルする工場へ運ぶ人、紙をリサイクルする人等、紙のリサイクルだけを見ても、本当に様々な人が関わっていることを感じました。社会全体では無数の人が、他の人のために働いているのかと思いました。今回の職場体験を将来直接ではなくても活かしていきます。今回はほんとうにありがとうございました。

トイレットペーパー

「フューメラン」
(65m巻き・100個入り)

1ケース3,200円(消費税・配達料込み)です。

※なお、配達には以下の地域に限定させていただきます。

小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・東大和市

ご注文は当組合までお願いします。

TEL: 042-395-9788

FAX: 042-395-9787

行事・行動

【平成二八年九月】

二日：小平RC責任者会議

六日：青年部会議

・業務委員会

十日：小平市環境フェスティバル

十二日：定例理事会

十四日：小平市廃棄物減量等推進

審議会

・東村山市RF実行委員会

十五日：東村山二中職場体験学習

十六日：東村山二中職場体験学習

二六日：青年部会議

二八日：東大和市廃棄物減量等推

進審議会

・東村山市業者連絡会議

二九日：GPS調査(西東江市)

【十月】

三日：清瀬市廃棄物減量等推進

審議会

四日：小平市ごみ減量実行委員会

・西東江市受託業者会議

五日：集団回収委員会

・業務委員会

六日：古紙センターセミナー

七日：小平RC責任者会議

・回収員安全講習会

十二日：定例理事会

十六日：東村山市RF

・清瀬市市民まつり

十八日：官公需共同受注検査

・西東江市廃棄物減量等推

進審議会

二〇日：東村山四中職場体験学習

・GPS調査(西東江市)

・古紙センター理事会

二四日：東久留米市廃棄物減量

等推進審議会

二五日：官公需共同受注検査

・小平市廃棄物減量等推進

審議会

二六日：東村山市RF実行委員会

二八日：業務委員会

【十一月】

二日：官公需共同受注検査

四日：小平RC責任者会議

八日：小平市「リサイクル

きやらばん」

九日：官公需共同受注検査

十日：飛翔クラブ講演会

十一日：定例理事会

十四日：東リ協会茨城・福島リサイク

ル施設視察(十五日まで)

十五日：東久留米市環境フェスティバル

実行委員会

十六日：広報委員会

十七日：日中古紙セミナー

十八日：あらかわRC視察

・組合健康診断

二一日：GPS調査(東村山市)

・総務・財務委員会

二三日：ミャンマー視察(二六日まで)

二四日：東大和市廃棄物減量等推

進審議会

二八日：EA21中間審査

・東久留米市廃棄物減量等

推進審議会

三〇日：東村山市業者連絡会議

【十二月】

二日：小平RC責任者会議

・小平市ごみ減量実行委員会

七日：青年部会議

十日：組合ボリング大会・忘年会

十二日：小平市廃棄物減量等推進

審議会

・財務委員会

・定例理事会

十三日：東リ協会会員情報交換会

十六日：東村山市戸別回収定例協

議

十七日：研修旅行(十八日まで)

二〇日：GPS調査(小平市)

・東久留米市環境フェスティバル

実行委員会

二一日：緊急理事会

二二日：西東江市受託業者会議

二四日：臨時理事会

二六日：集団回収委員会

二九日：東村山市臨時回収

三〇日：仕事納め

編集後記

一面にもありましたが、新聞・

雑誌、特に週刊誌の発行減による

古紙発生減が顕著になってきまし

た。年末の忙しさは毎年と変わら

ないのに、回収量は着実に減って

きています。働けど、働けど、数

字に表れていかないのは回収業者

にとつてなかなかしんどい話です。

そんな中、未だに持ち去り業者

が横行しているのは本当に許せま

せん。二〇一六年も、パトロール

やGPS調査の甲斐もなく、持ち

去り業者が『去る』年とはならず、

新年を迎えてしまいました。持ち

去り業者が『盗り』にくる年では

なく、来年には持ち去り業者が『居

ぬ』年になるよう、二〇一七年も

頑張つてまいりたいと思います。

六面の記事でも紹介しましたが、

防災の観点から共助の輪づくりに

つながる集団回収は素晴らしいシ

ステムだと思えます。行政回収は、

ごみ減量、そして市民サービスの

観点からも必要なシステムです。

回収システムが多様化する中でも、

集団回収&行政回収の両輪で持続

可能な資源循環型社会をしつかり

と構築していけるよう取り組んで

まいります。本年も変わらぬご指

導ご鞭撻を賜りますよう、よろし

くお願い申し上げます。(TKO)